

平成23年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成22年10月8日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 マックハウス
 コード番号 7603 URL <http://www.mac-house.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 舟橋 浩司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役業務改革室長 (氏名) 杉浦 功四郎
 四半期報告書提出予定日 平成22年10月13日 配当支払開始予定日

TEL 03-3316-1911
 平成22年11月4日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年2月期第2四半期の業績(平成22年3月1日～平成22年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年2月期第2四半期	20,480	△14.7	△910	—	△833	—	△1,423	—
22年2月期第2四半期	24,000	—	△527	—	△488	—	△796	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年2月期第2四半期	△91.28	—
22年2月期第2四半期	△51.09	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年2月期第2四半期	25,983	13,274	51.1	851.25
22年2月期	31,557	14,854	47.1	952.53

(参考) 自己資本 23年2月期第2四半期 13,274百万円 22年2月期 14,854百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年2月期	—	20.00	—	10.00	30.00
23年2月期	—	10.00	—	—	—
23年2月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年2月期の業績予想(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,280	△13.6	△614	—	△438	—	△1,624	—	△104.16

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

（注）「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年2月期2Q 15,597,638株 22年2月期 15,597,638株

② 期末自己株式数 23年2月期2Q 3,248株 22年2月期 3,133株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年2月期2Q 15,594,454株 22年2月期2Q 15,594,565株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については四半期決算短信（添付資料）5ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報.....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報.....	5
2. その他の情報.....	5
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要.....	5
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要.....	5
3. 四半期財務諸表.....	6
(1) 四半期貸借対照表.....	6
(2) 四半期損益計算書.....	8
【第2四半期累計期間】.....	8
【第2四半期会計期間】.....	9
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書.....	10
(4) 継続企業の前提に関する注記.....	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	11
4. 「参考資料」.....	12
(1) 商品別売上高の状況.....	12

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間(平成22年3月1日～平成22年8月31日)における我が国経済は、企業収益の改善等一部で景気回復の兆しが見られたものの、不安定な雇用情勢や景気の先行き不透明感から個人消費は伸び悩む状況で推移いたしました。

ジーンズカジュアル業界におきましても、消費者の生活防衛意識から買い控え傾向が引続き強まるとともに、企業間の価格競争の更なる激化等もあり、極めて厳しい経営環境となりました。

このような状況の中で、当社は、業績立直しに向けて企業体質改善をすべく不採算店舗の撲滅を推進、採算重視の新規出店を継続して行ない収益改善に努めてまいりました。

また、当期より展開を開始した「セダークレスト」ブランド拡販のため、6月初旬にアウトドアイベントに出店するとともに、6月中旬にはファッション雑誌モデルを起用したTVCM及びそれと連動したチラシを実施し多面的に販促活動を強化、客層拡大に注力いたしました。

併せて、小商圏型新業態「リラクシング」の実験展開を継続し既存店舗のテコ入れに取り組む一方で、モバイルを活用したお買得情報の発信強化等の施策を実施、売上高回復に専念してまいりました。

しかしながら、景況感の厳しさから消費者の買い控えや低価格志向が依然として強く、客単価は回復傾向にあるものの客数が伸び悩んだため売上高が減少、当第2四半期累計期間の既存店舗売上高は前年同四半期比12.6%減と苦戦が続きました。

商品動向としましては、キッズが比較的堅調に推移した一方で、メンズ・レディースとも主力となるジーンズ及びカットソーが不振でした。

店舗の状況につきましては、当第2四半期累計期間において新規出店10店舗、退店19店舗により、第2四半期末店舗数は533店舗(前年同四半期比30店舗減少)となりました。

これらの結果、当第2四半期会計期間における売上高は9,817百万円(前年同四半期比12.3%減)、営業損失は762百万円(前年同四半期は営業損失802百万円)、経常損失は746百万円(前年同四半期は経常損失782百万円)、四半期純損失は979百万円(前年同四半期は四半期純損失758百万円)となりました。

また、当第2四半期累計期間における売上高は20,480百万円(前年同四半期比14.7%減)、営業損失は910百万円(前年同四半期は営業損失527百万円)、経常損失は833百万円(前年同四半期は経常損失488百万円)、四半期純損失は1,423百万円(前年同四半期は四半期純損失796百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ5,573百万円減少し、25,983百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ5,069百万円減少し、17,063百万円となりました。これは主に現金及び預金が3,444百万円、商品が1,575百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ504百万円減少し、8,919百万円となりました。これは主に閉店により敷金及び保証金が366百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ3,994百万円減少し、12,708百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ4,173百万円減少し、9,627百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が3,719百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ179百万円増加し、3,081百万円となりました。これは主に長期未払金が50百万円、長期リース資産減損勘定が53百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ1,579百万円減少し純資産は13,274百万円となりました。

これは主に四半期純損失を1,423百万円計上したことや剰余金の配当155百万円などによるものであり、総資産に占める自己資本比率は51.1%となり前事業年度末に比べ4.0ポイント増となりました。

(1株当たり純資産額)

当第2四半期会計期間末における1株当たり純資産額は851円25銭となり前事業年度末に比べ101円28銭の減少となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前四半期会計期間末に比べ344百万円増加し、7,167百万円となりました。

また当第2四半期会計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、342百万円となりました。

これは主に、税引前四半期純損失を928百万円計上するとともに、たな卸資産の減少による収入2,735百万円、仕入債務の減少による支出1,875百万円等によるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、26百万円となりました。

これは主に、新規出店等に伴う有形固定資産の取得により20百万円支出した一方で、敷金及び保証金の回収による収入が58百万円増加したこと等によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、25百万円となりました。

これは主に割賦債務の返済による支出23百万円等によるものであります。

(3)業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成22年4月9日公表の平成23年2月期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、平成22年10月5日付「平成23年2月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年8月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,581	12,026
売掛金	505	527
商品	7,422	8,998
前渡金	1	4
前払費用	471	481
その他	80	96
流動資産合計	17,063	22,133
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	224	232
建物附属設備(純額)	695	711
構築物(純額)	59	72
工具、器具及び備品(純額)	97	110
土地	238	238
リース資産(純額)	9	10
建設仮勘定	0	—
有形固定資産合計	1,325	1,376
無形固定資産		
借地権	106	106
商標権	0	0
ソフトウェア	95	127
無形固定資産合計	202	234
投資その他の資産		
出資金	0	0
長期前払費用	268	304
敷金及び保証金	7,076	7,442
出店仮勘定	20	22
破産更生債権等	—	6
その他	71	75
貸倒引当金	△44	△38
投資その他の資産合計	7,392	7,812
固定資産合計	8,919	9,423
資産合計	25,983	31,557

(単位：百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年8月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,703	7,423
ファクタリング債務	4,109	4,482
未払金	126	96
未払法人税等	131	142
未払消費税等	48	54
未払費用	827	850
預り金	15	56
前受収益	29	26
賞与引当金	90	111
店舗閉鎖損失引当金	164	186
リース資産減損勘定	353	315
リース債務	2	2
その他	25	50
流動負債合計	9,627	13,800
固定負債		
長期未払金	332	281
退職給付引当金	1,453	1,404
役員退職慰労引当金	117	112
転貸損失引当金	188	165
長期預り保証金	170	170
長期リース資産減損勘定	793	739
リース債務	7	8
繰延税金負債	19	19
固定負債合計	3,081	2,902
負債合計	12,708	16,703
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,617	1,617
資本剰余金	5,299	5,299
利益剰余金	6,362	7,942
自己株式	△5	△5
株主資本合計	13,274	14,854
純資産合計	13,274	14,854
負債純資産合計	25,983	31,557

(2) 四半期損益計算書
【第2四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年8月31日)
売上高	24,000	20,480
売上原価	13,776	11,681
売上総利益	10,224	8,799
販売費及び一般管理費	10,751	9,710
営業損失(△)	△527	△910
営業外収益		
受取利息	16	12
受取配当金	0	—
受取家賃	141	159
受取手数料	66	59
雑収入	21	34
営業外収益合計	245	266
営業外費用		
支払利息	1	2
不動産賃貸費用	124	144
転貸損失引当金繰入額	73	36
雑損失	7	5
営業外費用合計	207	189
経常損失(△)	△488	△833
特別利益		
受取違約金	—	5
貸倒引当金戻入額	17	—
転貸損失引当金戻入額	16	—
保険差益	—	4
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	11
特別利益合計	34	21
特別損失		
固定資産除却損	14	32
店舗閉鎖損失	6	28
減損損失	370	373
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	75
特別損失合計	392	509
税引前四半期純損失(△)	△846	△1,322
法人税、住民税及び事業税	104	101
法人税等調整額	△154	△0
法人税等合計	△49	101
四半期純損失(△)	△796	△1,423

【第2四半期会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期会計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)	当第2四半期会計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)
売上高	11,191	9,817
売上原価	6,765	5,851
売上総利益	4,426	3,966
販売費及び一般管理費	5,229	4,728
営業損失(△)	△802	△762
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	0	—
受取家賃	73	81
受取手数料	18	19
雑収入	10	24
営業外収益合計	110	131
営業外費用		
支払利息	0	1
不動産賃貸費用	65	74
転貸損失引当金繰入額	19	36
雑損失	5	4
営業外費用合計	90	116
経常損失(△)	△782	△746
特別利益		
受取違約金	—	5
貸倒引当金戻入額	17	—
転貸損失引当金戻入額	2	—
保険差益	—	4
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	1
特別利益合計	20	11
特別損失		
固定資産除却損	7	16
店舗閉鎖損失	5	22
減損損失	164	124
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	30
特別損失合計	177	193
税引前四半期純損失(△)	△939	△928
法人税、住民税及び事業税	△64	50
法人税等調整額	△116	△0
法人税等合計	△181	50
四半期純損失(△)	△758	△979

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△846	△1,322
減価償却費	154	134
減損損失	370	373
退職給付引当金の増減額(△は減少)	52	48
賞与引当金の増減額(△は減少)	△8	△21
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△14	5
受取利息及び受取配当金	△16	△12
転貸損失引当金の増減額(△は減少)	40	22
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	—	△22
支払利息	1	2
賃借料との相殺による保証金返還額	218	198
売上債権の増減額(△は増加)	△25	21
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,723	1,575
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,219	△4,090
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	1	5
固定資産除却損	14	32
店舗閉鎖損失	6	28
未払消費税等の増減額(△は減少)	90	△6
その他	△277	△227
小計	△3,733	△3,255
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△1	△2
法人税等の支払額	△590	△69
過年度法人税等の支払額	△53	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,377	△3,326
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△51	△23
無形固定資産の取得による支出	△1	—
敷金及び保証金の差入による支出	△150	△51
敷金及び保証金の回収による収入	126	158
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75	84
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△311	△155
リース債務の返済による支出	—	△1
割賦債務の返済による支出	—	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	△311	△202
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,764	△3,444
現金及び現金同等物の期首残高	12,432	10,612
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,667	7,167

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 「参考資料」

(1) 商品別売上高の状況

期別 商品別	前第2四半期累計期間 自 平成21年3月1日 至 平成21年8月31日	当第2四半期累計期間 自 平成22年3月1日 至 平成22年8月31日	前年同四半期比	増減
メンズアウター	498百万円	506百万円	101.6%	7百万円
メンズインナー	6,576百万円	5,234百万円	79.6%	△1,342百万円
メンズボトムス	4,959百万円	4,347百万円	87.7%	△612百万円
レディース	7,495百万円	6,172百万円	82.3%	△1,323百万円
その他	4,470百万円	4,220百万円	94.4%	△249百万円
合計	24,000百万円	20,480百万円	85.3%	△3,520百万円

(注) 「その他」は小物、子供服等であります。